

# その6 木の家具に学ぶ

# 木の家具に学ぶ

中川 典子

最近、木の家具を求める方の傾向が変わってきたように思います。新築マンションに住む中京区在住のNさんは、無機質な部屋に、何か自然のものが欲しくなりました。皮付き、幅の広い板などさまじく見えた結果、触った感じが一番温かく、節のある杉材にひかれ、引き出し付きカウンターを製作することになりました。

## 見て触ってこだわり抜く

柔らかい杉材の家具には傷が付きやすいという弱点がありますが、日本でもそれも奈良県吉野で何十年育った杉には、独特の存在感というものがあります。ひきだし前面の板の杢目を合わせることで、さらに美しさを演出します。長く使えるように、傷除けと水気をはじくための垂麻仁油を仕上げに塗ると、香り豊かな青杉のパワーが体に入ってくるような、柔らかな仕上げになります。

京都府中京区在住の井上信行さん

(49)は、息子、妻とく(8)の小学校入学の際、松対するアレルギートンと建材や塗料などに敏感なことが心配になり、彼の体に負担のない学習机を探しました。既製品では難しく、板選びから始まると、インターネットで情報をためた。オーダーメイド家具を選択した。タモ製の学習机が作られている工場を子供たちと訪ねるうちに、弟

の弥典くん(5)も欲しがって、結局二台作ることにしました。木の家具は昔ながらの榎、桐、桜、タモなどの広葉樹が主流でしたが、山が荒廃して広葉樹が激減しました。目新しい針葉樹家具への抵抗感が無く、国内に豊富にある杉や檜の存在が新たに注目され、針葉樹の物が豊かになり、使い捨てや安価なものなど、なんでもそろそろ世の中であえて木のある暮らしを選択する人があつきました。自然との共存を考えつつかけにもなりそうので、うれしい出来事です。

(銘木業界)

古い家具から作られたリビングポット(京都市伏見区)



近年、温暖化の影響もあって、日本の森林は劇的に荒廃しています。脅かしているわけでもありません。京都や滋賀の山々では、本来は熱帯に住む虫たちによる侵食、台風や暖冬、手入れの悪さなどから、私の祖父の時代では考えられなかったほど、木の質が悪くなっています。

ならば、昔の木材は良かったと考えるのも当然。「もったいない」の風潮もあり、古材や木製の古家具を利用して、自己流にアレンジし、新しい家具や建築材料に使うことが増えてきました。一度は廃材となったものが、再び、新たな形で愛される家具や家になるのです。

昔、家を建てる際、使う木材の通し番号を書いた棟札や棟梁の名前などの書かれた梁、床の間に使われた、今では取れないような幅の広い板、製材機械のない時代に大きなノコギリで引き割ったような板。すべて年月を経た艶色の艶を帯びて、第二の人生を待っているように見えます。

このような木の活用を見る時、日常の暮らしの中でいかに無駄なく、効率よく、物を大切にすることが欠けているか、思い知らされ、おおいに反省します。皆さんも、しまいだんだん思い出の古家具やまだ使える古材を、思い切った新しいものにアレンジする楽しみや、年月を経過してできた木の持つ魅力や、ぜい味を味わってみたい。

## 古材の活用 (味わい増し、再度の出番待つ)

毎月第一週に掲載します。



杉の家具と学習机は千本銘木商会 <http://www.kyoto-suya.co.jp/> 古材は丸嘉の京都・古材市場 <http://www.kozai-ichiba.com> リフォームの家具は丸嘉とタッチミー <http://www.me-touchme.com/>



写真上は、傷から守るため、杉のカウタを麻仁油でコーティングする(京都市中京区・千本銘木商会)。下は左から、兄弟おそろいのタモの学習机(同上京区)と、店頭に積み上げられた古材(同伏見区・丸嘉)

